

第3回 **全国同人雑誌会議** in Tokyo
 新たな創造エネルギーの発露へ——文芸復興をめざして



全国の同人雑誌作家諸君！ 2019
 書く表現者諸君！ 10月19日
 東京に集まろう！
 同人雑誌の新たな結合をめざして



全国の同人雑誌関係者が一堂に会し、書いて創造する立場からもう一度活字文化に対する同人雑誌の意味を洗い直し、書く行為に向けて、積極的に賞揚と連帯とネットワーク強化を話し合う。

■基調講演 & スピーチ 作家 **三田誠広氏**
 「文学の理念と文芸ジャーナリズム」
 スピーチ 作家 **中上紀氏・飯田章氏**
 基調スピーチ 三田村博史「いまなぜ同人雑誌か」
 五十嵐勉「活字文化の危機と同人雑誌の役割」

■第13回まほろば賞授賞式
 ■シンポジウム & 同人雑誌諸家の提言と話し合い
 「同人雑誌の新たな結合に向けて」
 全国同人雑誌作家の交流会 全国同人雑誌展示

主催 ■ **文芸思潮 / 中部ペンクラブ**
 後援 ■ **日本文藝家協会・中日新聞・東京新聞・三田文学・季刊文科**

日時 ■ 2019年10月19日土曜日 午後1時より
 会場 ■ 池坊東京会館 6F 大ホール「御茶ノ水」駅徒歩5分
 参加費 ■ 1万円(懇親会・パーティ飲食費含む)



同人雑誌に所属していない作家・書き手も参加可能

■翌日オプションで漱石記念館・森鷗外記念館など文学散歩ツアーあり。文学散歩は翌10日10時ホテルジュラク前より出発

いまなぜ同人雑誌か——
 活字文化の危機に際して

活字文化が危機に瀕している。深刻化する出版不況に加え、週刊誌・月刊誌の売上も下降線を辿り、新聞の購読者さえ激減している。

これはパソコン、スマホの普及により、電子媒体が普遍化したためで、特に若い世代はほとんど新聞や本を読まず、もっぱら情報をこの媒体に依存している。メールやフェイスブック、ツイッターの広がり、紙媒体をはるかに超えている。

しかしこの趨勢に完全に身を任せていいのだろうか。我々はものを考えるとき、時間を止め静かな空間で思考する。しかし電子情報は、過多の洪水性と、動画的傾向のために、否応なく流動性のなかに巻き込んでいく。その結果、思考は浮薄化し、享楽化、刹那化する。

人間にとって最も重要なものは、深く考える力だろう。思考力は筋肉と同じで、一朝一夕に身につくものではなく、地味な努力と鍛錬のうちに養われていくものである。我々は生きた言語や活字による思考を人間の基本的な能力として保持していかなければならない。言葉で物事を捉え、世界を感じ、文章で思考を組み立て、姿勢や態度に強く繋げていくことは、人間にとって歩くことや手を使うことと同じ重要な力である。人は言葉によって本質を捉え、言葉によって決断するのであって、

その能力が衰退することは精神を弱体化する。言葉の腐敗は文化の腐敗となる。

その意味で、詩を作り文章を紡ぐ同人雑誌の活動は、電子世界に向かい合うものとしていっそう重要性を増している。この根本的な領域から、同人雑誌の活動を見直し、活字文化を保持する基盤の一つとして新たな力を興すことが求められている。もともと日本文学は、大正期の志賀直哉の「白樺」、芥川龍之介が作品を発表した「新思潮」、昭和初期の川端康成が活躍した「文芸時代」など同人雑誌が基盤を支え、母体となってきた。

同人雑誌界を時代の要求の面から掘り起こし、再生復興の力とすることは可能か——今それが問われている。書き手の新しいつながりを作り、同人雑誌作品への賞など奨励を図り、逆にインターネットを利用して作品をだれもが読めるようにするなど活性化の中から活字文化への新たな力が湧き出さずである。

この秋十月十九日に開かれる全国同人雑誌会議へ向け五百以上の誌に呼びかけている。提言を受け止め、具体的な展開の方法を議論する場にした。新たな同人雑誌の結合と復興をめざし、建設的な第一歩を踏み出せることを切望している。

文芸思潮 五十嵐勉
 (東京新聞・中日新聞掲載)

問い合わせ・申込は文芸思潮まで TEL03-5706-7847 FAX 03-5706-7848

第三回全国同人雑誌会議に向けて